

地域移行部会活動報告書 (石神井障害者地域生活支援センター)

1 専門部会の検討テーマ・目的

関係機関の連携を強化し、障害者の地域移行・地域生活の定着に向けて支援体制の検討を行う。

- 地域移行、地域定着の推進に関すること
- 地域での暮らしを続けるために必要な支援の充実に関すること
- 障害者が賃貸住宅で円滑に住居を選び、継続して居住するための支援に関すること

2 専門部会の開催状況と主な協議内容

回	年月日	主な協議内容
第 1 回	平成 28 年 10 月 17 日	<u>第 3 期地域移行部会の活動概要の共有と第 4 期への引継ぎ事項について確認</u> 【主な内容】 ・東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業について
第 2 回	平成 29 年 2 月 6 日	<u>地域生活支援拠点等の整備について協議</u> 【主な内容】 ・地域生活支援拠点等の機能や課題について
第 3 回	平成 29 年 6 月 26 日	<u>第五期障害福祉計画・第一期障害児福祉計画について意見交換</u> 【主な内容】 ・就労支援、施設入所者の地域移行、障害児支援等について
第 4 回	平成 29 年 10 月 16 日	<u>地域生活支援拠点等の整備について協議</u> 【主な内容】 ・障害別によるグループホームの利用について <u>ピアサポーター活動について意見交換</u> 【主な内容】 ・ういんぐでのピアサポーター活動の取組
第 5 回	平成 30 年 2 月 5 日	<u>地域生活支援拠点等の整備について協議</u> 【主な内容】 ・意見のまとめ <u>知的障害者の地域移行の現状について意見交換</u> 【主な内容】 ・障害者サービスから高齢者サービスへの移行について ・知的障害者の高齢化に伴う必要な支援について
第 6 回	平成 30 年 6 月 18 日	<u>第 4 期の経過報告と意見交換</u> 【主な内容】 ・これまでの協議内容と課題の確認

第7回	平成30年10月29日	<u>高次脳機能障害について情報共有</u> 【主な内容】 ・東京高次脳機能障害者支援ホームの機能について ・高次脳機能障害の支援について
第8回	平成31年1月28日	<u>第4期のまとめ</u> 【主な内容】 ・地域移行部会のまとめ

3 専門部会の協議の中で見えてきた課題等

(1) 障害者の住まい、地域移行に関すること	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○グループホームの数は他区に比べると多い方であるが、様々なニーズに対応できるような種類が足りていない。介護保険や精神科との医療連携などが求められている。 ○障害者本人の意思や希望などが尊重される支援の仕組みが足りておらず、住まいの選択肢が少ない。
現状・課題に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ○地域移行を利用して地域生活を始めている知的障害の方には必要なのは、夜間の入所先があること、日中の作業場所があることである。 ○支援が重層的に必要な人は、グループホームに入るのは難しい現状がある。通過型のグループホームでその先の生活まで考えてもらえると良い。 ○精神障害者で入院中の方のなかに、実際に地域移行支援が可能な方がどのくらいいて、社会的入院の患者がどのくらいいるのかということについて検証が必要。現在地域で生活されている精神障害者の方には、様々な課題があるように感じている。 ○精神障害者や知的障害者でグループホームを利用している人が、住まいの場を高齢者サービスにスムーズに移行していけるのか。 ○住まいに関して福祉分野だけでなく、不動産との連携が必要。住まいの形はグループホームだけでなく、一人暮らしの場合なども考えていかないといけない。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でどのように生活をしていきたいのか、知的障害者の場合、早い段階から本人だけでなく、家族に対しても働きかけをしていく。 ○医療的ケアへの対応やレスパイト、発病防止など様々なニーズに応じたグループホームやショートステイの必要性、その活用方法を考える。 ○体験の場を提供できる機会を増やしていけるよう、ショートステイの受け入れ先やグループホームへ働きかける。 ○空き家の利用など地域資源の活用の可能性を模索していくとともに、グループホームの空き状況を集約できるようにしていく。

(2) 障害者が地域で暮らし続けるために必要なこと	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○知的障害の方は選択の機会が少なく、親や施設の意向もある中で、自分で自分のことが決められるような体験の機会も少ない。 ○身体障害者、高次脳機能障害の日中活動の場が少ない。医療的ケアが必要な方への医療的な資源が足りていない。
現状・課題に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ○知的障害の方は若いころから高齢になった時のことをイメージしていけるように、体験の機会を子どものうちから提供していき、経験値を増やしていくことが大切。 ○知的障害の場合、地域に資源がないと一人暮らしは難しい。ライフステージにあわせた施設を作っていく必要がある。 ○地域の中で取り組める支援を考えて、いかに地域資源を活用していくか。 ○精神障害者の場合、体調が少し悪くても地域で住み続けられる支援の仕組みづくりが必要。 ○障害特性に合わせて24時間の見守り体制が必要になる。見守りの仕組みをどう作っていくかが課題である。 ○支援者は精神・知的・身体・高次脳機能の障害の方について、その特性について学ぶ必要がある。 ○重症心身障害者の方々がグループホームを利用するうえで、医療・看護をどう取り入れていくか課題がある。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援拠点等の活用など、地域に定着できる支援の仕組みを整えていく。 ○当事者の活動を応援して活動の場を広げていく。 ○障害福祉サービスと介護保険との連携が円滑にできるように、人材の育成、確保に取り組んでいく。

4 第5期への引継ぎおよび提案事項等

第4期では精神障害者だけでなく、知的障害者や身体障害者も含めて、地域移行の現状や課題について検討を重ねてきた。

障害特性によって、住まいの考え方や地域で安心して暮らしていくために必要な支援は異なるため、多種多様な連携と人材確保が求められる。まずはそれぞれの分野がお互いの現状を知ることから始め、介護保険分野と保健・福祉分野の連携を図り、議論ができる場を構築していくことが重要である。また、多様化する支援の中で、その人の個別性にどのように寄り添うのか、職員のスキルアップや人材育成にもしっかりと取り組んでいかなければならないという課題もあげられた。

第5期では、第4期で確認した内容も含め、障害者が地域で暮らすために必要な医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加、教育などの基盤体制と支援体制の構築に関すること、地域移行・地域定着支援に関することなどを、より具体的に「地域包括ケアシステム・地域移行部会」として検討していく。